

今後の日本と木材業界

外国産材、とりわけ南洋材を商いにしていた関係者が大打撃を受け始めたのがざっと5年位前です。そして、北米針葉樹原木を主に扱っている関係者が大打撃を受けたのがざっと3年位前です。そしてロシア材を扱う関係者に大打撃を与えたのが2022年のロシア材の輸出禁止とウクライナ危機です。

主な産地の大きな流れは原木から製材品、そして加工品での輸出が理想だと見えていますが、今後我々日本のマーケットの対応は如何になって行くのでしょうか。

ウクライナ危機が始まる前から、日本政府は国家安全保障と言う考え方に基づいて新しい判断をしようとしています。要はサプライチェーンにおける国家安全保障なのです。

木材資源、特に植林した針葉樹は日本国内に余っています。しかしプラザ合意以降、急激な円高は国内資源を使用するより海外資源を使う方が金銭的に得でした。そのメリットが逆に日本国内の林業に深刻なダメージを与えたのです。

40年昔零細でも優れた製品を生み出す製材工場は山の様に有りました。例えば床の下に敷く杉の15ミリ厚・長さ6尺巾1尺の製材品を作る製材工場は岐阜県に多く有ったと記憶していますが、もはやネットで検索しても出てきません。小生の記憶に有るだけです。

合板価格が高騰しても、昔は対応できる商品が多く有りました。現在では合板をゼロで住まいを作りあげることは一部の業者にはできても、他は無理だと思います。

日本政府は森林を生かす為に大がかりな補助金を出しています。その方向性は間違っていないと思います。要は、木材業界あげて日本国の林業と材木屋の関係を議論すべきだと思いますが、総論賛成各論反対の業界ですので、自然淘汰以外に木材業界の再生はないと思っています。

例えばCLTは日本の将来を明るくする工法だと思います。この工法は流通革命を促すと、小生は考えています。メーカーからユーザーに直接販売され、施工現場にはネットワークカメラを利用したAIが活躍すると想像しています。現実に近い将来実現すると考えています。また、恩恵として鉄製品の生産量も減り温暖化対策にもつながると思います。

日本中の産業を巻き込んだ再編成が木を中心に起こっても不思議ではないと思っています。それ位大きな革命が起こると想像すると、総論賛成、各論反対の立場はとれなくなると考えています。

服部商店も大嵐の中をさまよっているのも事実だと思っています。この大嵐が何時収束するのか誰も解っていません。しかしパンデミック・ウクライナ危機等が終っても地球温暖化防止に立ち向かう必要があるのです。生きるか死ぬかの判断が必要だと考えるのが温暖化対策です。経済と温暖化両方を上手くコントロールするのが我々の責任だと思っています。

インフレと超物不足に対応するには。

2022年5月現在、我々の周辺で起こっている事を整理してみます。

- 1, ウクライナ危機はまだ終わっていません。
- 2, パンデミックも終わっていません。
- 3, インフレが世界中に及んでいます。
- 4, 日本円が安くなっています。
- 5, 中国国内のゼロコロナ政策が続いています。
- 6, アメリカの金利が急上昇しています。
- 7, 築30年程度の中古マンションに不動産業者の積極的な買いが入っています。
- 8, 大阪の下町で古い住まいをお持ちの方が土地を手放しています。
- 9, 倉庫・住宅の新築コストがおよそ30%近く高騰しています。
- 10, 2022年3月期自動車メーカーは生産台数が昨年より減少しているのに好決算です。
- 11, パチンコ店の廃業が目につきます。
- 12, 中古自動車市場が活況であります。
- 13, 中央競馬会の売り上げが増えています。
- 14, 給料が上がり始めました。
- 15, スーパーマーケットの業界の再編成が起こっています。
- 16, ネットビジネスが大巾に伸びています。

小生は1958年10月14日生まれです。高校に通っていた当時、4月頃になると必ずストライキが有り、休みになることが毎年継続していました。当時国鉄のスト権ストライキも有り、4日間学校が休みになったことも有りました。労働者には団結権・争議権・集団交渉権の労働三権が保証されています。現在も保護されています。しかし何時くらいからか解りませんが、ストライキが全く無くなりました。

当時の新聞記事はもっぱら国に対して物価対策を唱える記事が殆どでした。確かに高度経済成長の時代ではありましたが、お給料と物価高騰の波は物価高騰の波が先で後からお給料が上がったと思います。

と言うことは40年間の時間が掛かりましたが、ようやくデフレ経済から緩やかなインフレ経済に向けて動き出したと考えています。

しかし当時と全く違うことが現在進行しています。それが温暖化です。温暖化対策を考える時、経済成長をしながら対策を講じなければならないことですが、例えば住宅の寿命を例にします。イギリスでは80年以上が住宅の寿命です。日本は40年以下です。それでいて現在の成長率はイギリスの方が日本より高い経済成長を果たしているのです。と言うことは、日本はイギリスに比べて何か工夫が足りないのです。その工夫は住まいの考え方だと思います。スケルトンとインフィルと言う考え方があります。スケルトン、つまり骨組みを大事にする住まい作りで色んな合わせ技をすれば経済成長を促すのだと思います。

今日のインフレは一時的ではありません。急激なことはないとは思いますが、継続していくと思います。インフレが当たり前。地球温暖化対策も当たり前。安全保障もある程度自前であるのが当たり前。こんな前提で物事を考えていく必要があると考えています。

木材資源に当てはめると、現在日本国内で目の前に有る材が最も安く物が良いのです。少々時間の経過を待っても価格はコロナ前には戻らないのです。

この前提で服部商店は商いを進めています。勿論外部環境が激変してきますので会社自身も常に改革を進めて参ります。

その中であって継続して商いの有る方と暫く商いの無い方がいらっしゃいますが、弊社の商いのスタンスは全く変わりません。ネット販売である為、販売価格はオープンです。従って商いの継続か否かを考えることは、弊社のサービスにはございません。

インフレと超物不足に強い服部商店の在庫をお客様の営業活動にフルに使っていただくと幸いです。

SDGs について

国内産の木材を使えば SDGs という表現方法している方が少数ですがいらっしゃいます。アメリカ材を使うより国産材の方が環境問題に優れているかのような表現はお止め下さい。アメリカ材はヨーロッパの様な森林認証制度はできていませんが、AHEC（アメリカ広葉樹輸出協会）にてヨーロッパの森林認証制度に負けない森林管理が行われています。勿論日本の森林も違法なことは全くありませんが、公的な書類等の説明は日本の場合不十分です。

国内産の針葉樹の中で育っている所謂侵入木を更に大きく成長させて使い易い品質の木材資源に育てることこそ SDGs の継続可能な目標に近づくのです。

日本の森林の場合皆伐をしなければ経営ができない所も有れば、択伐で森林経営も可能な所も有ります。それらを一律に考えることは間違っています。森林という生き物は、本来針葉樹と広葉樹の育つ場所は決まっています。その決まりと我々の森林の使い方の議論をしていく以外に我々日本人の安全保障は存在しないと考えています。

お互いの立場を尊重して、相手を論破するのではなく、ディスカッションするべきだと思います。Facebook の森と木材というプライベートグループのページがありますが、いいね、は有りますが積極的な議論は大変少ないと思います。

私達は実名をはっきりさせて、相手の考え方も尊重しながら、議論をして行けば、必ず森林から施工現場まで全てが少しずつ良い方向に変化して行くと思います。

大事なのは相手の意見を尊重した上で、違う意見が有れば堂々議論をオープンな所であることが大事だと思います。それができれば素晴らしい木作りに結びつくと思います。

匿名ではなく実名で、会社の規模にとらわれない、透明で、重みも有って、第三者の目も有って、客観的であって、そのような発言ができる場所を作ることが可能なら、皆様の知恵を借りて議論したいと思っています。

服部商店から、負けるなウクライナ

全く特別軍事作戦が終わっていませんが、早く終わる様に祈っています。

2022年6月1日～6月30日

お得意先様向けのキャンペーン

毎週先着にて、30,000円以上（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）御
買い上げの5名様に、アマゾンギフト券5,000円を差し上げます。

新規のお客様限定のキャンペーンを実施

50,000円（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）以上お買い上げの全員
に、アマゾンギフト券10,000円を差し上げます。

